ほぼ週刊コラム　Partnership論　その２１４

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第二十九回勉強会（通年内容は**[**年表rev.9**](http://llc.a.la9.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)**参照方）の準備**

**日本語にならない英文：Rights are simply right.**

20161118 rev.1 齋藤旬

[**Inventing the People**](https://www.amazon.com/Inventing-People-Popular-Sovereignty-England/dp/0393306232/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1477553338&sr=8-1&keywords=Inventing+the+People)**の**[**半訳作業ファイルwork**](http://llc.a.la9.jp/Papers/Inventing%20the%20people/Inventing%20the%20people%20HanYaku%20work4.docx)**4を作成した。**

1．The Divine Right of Kings　神授王権 10-11

今週はこれらを和訳した。

**今週は半訳文の8 pageにある「rights are simply right」を取り上げたい**。kindle原文では位置No.146にあり、そこでは時制の一致のためにrights were simply rightとなっているが、ここでは現在形に直しておく。

**意味するところを日本語で表せば「権利はその根拠を必要とせず権利となる」と**いった所だろうが、英文はもっと味わい深い。なぜならば、現在のユダヤ教キリスト教イスラム教の元になった原始宗教（prehistoric religion）では、神の右の座（seat at the Right Hand of God）に着く者は正しい（right）、という考え方があるからだ。

**西洋には「正しい」を表す言葉が二系統ある**。一つはこの神の右の座（seat at the Right Hand of God）に由来するrightやrighteous。言わば、naturally（自然、本質的）に正しい「正しい」。もう一つは、justやlegitimateといった「人間の判断」を介して「正しい」とされた系統の「正しい」。日本語の「正しい」は、後者といえるだろう。

　そのため**、「rights are simply right」を「権利はその根拠を必要とせず権利となる」と和訳するならば**、「その根拠を必要とせず」の理由の説明が為されていないことになる。

　その理由は多くの西洋人にとっては明確だ。「God is.」即ち「神が存在する」から、というa prior commitment（前提与件）が、「rights are simply right」を認める西洋人達の多くに共有されている。もっとも、「rights are simply right」を公理として認めるなら、根拠は必要としない、即ち神の存在は必要としないが…。

**多くの日本人には「God is.」というa prior commitment（前提与件）は共有されていない**。従って、「rights are simply right」の意味を和訳しきれない。

今週は以上。来週も請うご期待。